

文化祭チャリティ販売では台風被害への募金を集め、宮古市へ送りました

ともしび
共生委員会ニュース

2016 年度　5 号

2017 年 2 月 6 日版

共生・校外学習委員会は平和や共生に関わる活動、修学旅行などを担当する教員の委員会です。原爆投下の地、長崎を訪れる 2 年生の修学旅行だけでなく、高等部の 3 年間の生活を通じ、同じ社会に共に暮らす様々な人々との関わりに目を向け、平和や共生の問題を考えていきましょう。この共生委員会ニュースでは、様々な経験をする機会を得た生徒や教員の声も他の多くの皆さんへ届けたいと思っています。その経験を共有し、一緒に考えるきっかけとして下さい。

2016 年 11 月 26 日、ボランティア部の生徒が、かつてハンセン病患者の強制隔離が行われた国立の療養施設「多磨全生園」を訪問見学し、ハンセン病について、患者への差別について、お話を聞きました。

多磨全生園を訪ねて

ＨＲ104　H. A.

私は今回の全生園を訪れたことが、初めて「ハンセン病」について詳しく知る良い機会になりました。本当に今まで「ハンセン病」に関する知識が全くなかったので、昔は「らい病」と言われていたこと、ハンセン病の歴史、療養所の始まり、施設、国と県との関わり、キリスト教や仏教との関わり、強制的な隔離、薬、らい予防法、ハンセン病の現状など、一から十までたくさんのことを伺いました。資料館の見学や、実際にハンセン病だったために全生園で人生のほとんどを過ごされている藤田さんのお話を聴いて、「ハンセン病患者に対する差別」はとてもひどすぎて心が痛くなりました。

感染のリスクは低いけれど、見た目が変わってしまうため、それだけでひどく差別されていたという事実はあってはいけないけれど、それがあったということは、今もこれからも変わらずしっかりと伝えていかなければならない現実です。



多磨全生園内の教会で藤田さんの講話を聞いている様子

しかし、資料館にあった資料は事実をそのまま伝えていないものがあることも伺いました。例えば、療養所での授業風景を撮った 1 枚の写真です。その写真は、みんな今の私達と同じように話を聴いているように映っているけれど、本当は、先生は常にマスクをつけたまま授業をしていたそうです。資料館は、唯一といってもよいほど次世代にも過去の事実を伝えるための手段なのに、それを偽るような資料があることにとてもショックを受けました。まだまだ「ハンセン病」ということに関する知識が無い人がほとんどなので、少しずつでも、まずはハンセン病について学べるチャンスが増えればよいと思います。

MY HOMETOWN FIRST?

Andrew Scott Carroll（英語科）

In 1984, in his song My Hometown, the American singer Bruce Springsteen sang about the sadness and **despair** in small towns in the USA because people were losing jobs and losing hope. Much more recently, Donald Trump's "America First" thinking has **echoed** this feeling, but has also **blamed** other countries for these problems, and many Americans support Trump because they think he will bring hope to the country. I am not a fan of Donald Trump, but one parts of Trump's idea of "America First" doesn't seem so strange to me. Every leader in the world **prioritizes** his or her country and its people, and it's natural to want your country's people to be successful and safe. To protect traditional Japanese farming, for example, Japan's government gives **subsidies** to farmers. This means that Japanese tax money is used for the subsidies. Japanese fruit is still more expensive than fruit or vegetables from other countries, but if people can afford to pay more because they **value** farming in Japan or because they think Japanese fruits are the best, there's nothing bad about this "Japan First" thinking. This last US **presidential election** was maybe **the most closely watched one** in a long time in Japan, and many Japanese are interested in how Trump's decisions on the TPP and US military in Asia will affect Japan, which is again "Japan First" thinking. This is also partly natural, but…

…in the last year, England has voted to leave the EU, people in other European countries blame their problems on other countries, and some countries will not accept refugees who need a home. The connection between these and the bad parts of "America First" is the thinking that outsiders cause or have caused problems. Sometimes people begin to feel angry because of problems in their country, and might start to feel **nostalgia** for how their hometowns used to be; they might begin to think that, somehow, more contact with the world created their problems. Globalization has brought difficulties, but we can't go back to before 1984, or to the way the world maybe used to be, and we can't only blame other countries for danger and problems, just as we won't blame a country if their fruit or vegetables are cheaper than ours. Closing borders and focusing on ourselves makes us close our eyes to the problems of others or to the dangers in the world today, and **prevents** understanding why we have these problems. Donald Trump wants to build a real wall to keep Mexicans out, and all around the world countries build immigration walls. But where are these people supposed to go, and who will accept them if the USA (or Japan) doesn't? A good hometown is a great thing, but not one that only values "Me First".



Despair 絶望、失望
Echo 響く、共鳴
Blame 責める、人のせいにする
Prioritize 優先する
Subsidies 補助金
Value 大事にする、高く評価する
Presidential election 大統領選
The most closely watched one 注目される、多くの人々の目を引く
Nostalgia ノスタルジー、昔を懐かしむ
Prevent ～を止める、～を防ぐ

東日本大震災
被災地ボランティアに参加して

HR208 M.M.


炊き出しボランティアの様子

震災から６年たった今、自分に何ができるのだろう。ありがた迷惑になってしまわないだろうか。そんな思いを胸に、ＳＹＤという団体が主催する仮設住宅訪問青少年ふれあいボランティアに参加し、炊き出し、交流をするために被災地に足を運んだ。

震災のボランティアというと、瓦礫撤去、人命救出、救援物資などを思い浮かべる。実際に震災直後は、主にそういった活動が行われていたが、現在は炊き出しなどで未だ仮設住宅で暮らす人々の話し相手や交流など、心の支えを中心としたボランティア活動を主に行っている。


炊き出しメニューのカレー、豚汁など

今回訪れたのは福島県名取市の仮設住宅。全 200 戸のうち現在 85 戸 180 名の方々が暮らし、高齢者と小さな子どもたちが目立った。

実際、命に関わる危機は去ったが、現在でも居住スペース、食事、特に水は、私が予想していたよりもはるかに制限された生活を送っていた。仮設住宅は薄いプレハブの壁で寒く、未だ震災前の生活と比べると不自由が多いはずである。にも関わらず、私たちの配った食事（カレー、豚汁、杏仁豆腐、コーヒー）を笑顔で受け取り、それぞれに一期一会・一瞬一瞬を大切に生きていくことで輝いていた。

仮設住宅周辺には、今なお津波で流された荒地やなにもない空き地が広がっていた。その殺伐とした風景と人々の過去を振り切った力強い笑顔とのギャップが妙に心に響いた。

些細な手伝い、交流をするだけでも多大なボランティアになる。だから何かをしなければいけない、などと頭で考えすぎず、誰かを助けたい、誰かのために何かをしたい、そんな気持ちがあれば、それだけで恐れず飛び込んでみることだ。ボランティアに躊躇なんて必要ないのだ。

今回のボランティアを経験し、与えることよりも圧倒的に得ることの方が多かった。同じような考えや思いを持った同世代の人から計り知れないほどの刺激を受けた。震災直後ではなく、６年経ってボランティアに来た意義を自分なりに考え伝えていきたいと思う。

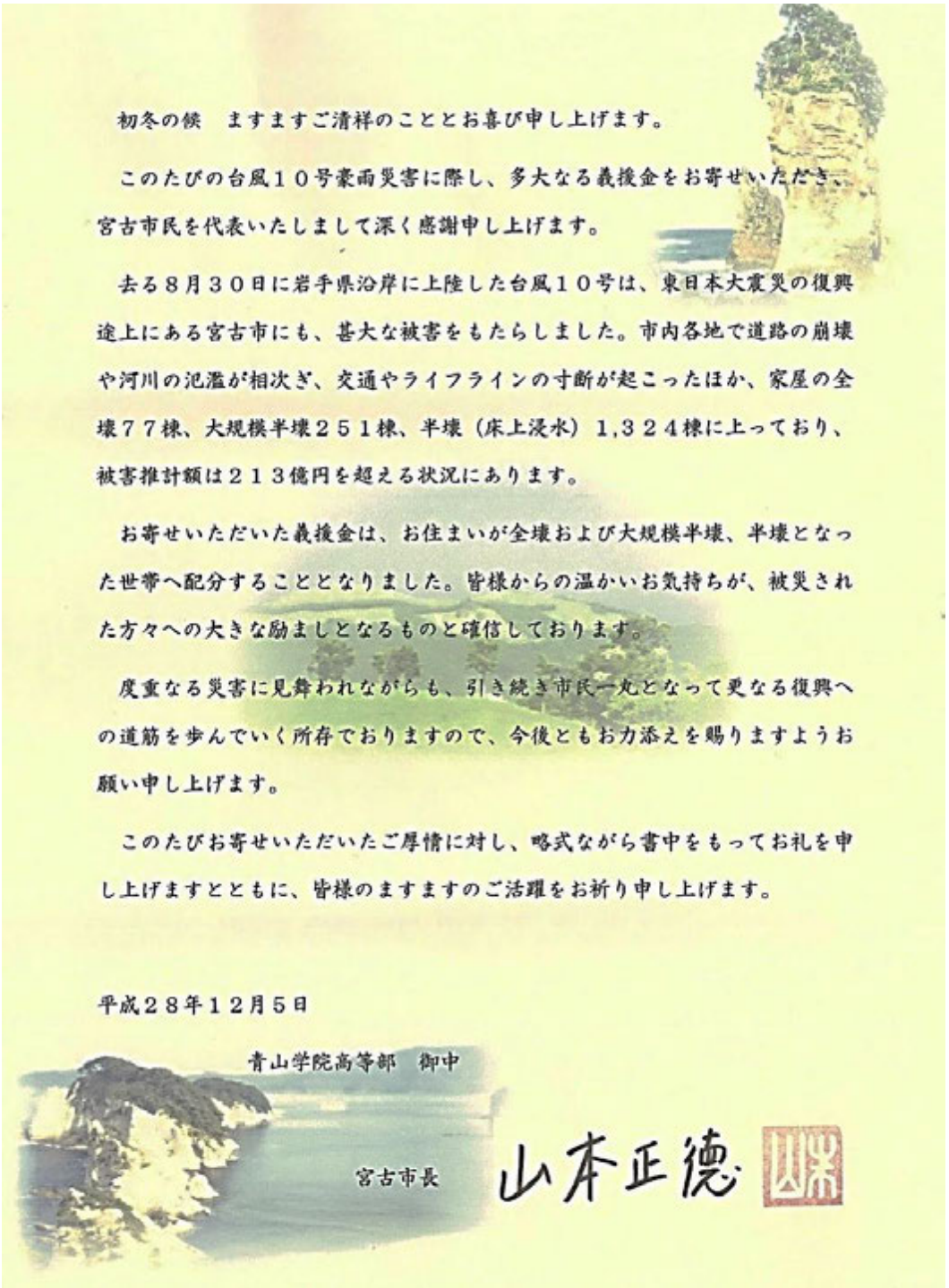
We can change the world !


津波の最大の高さの慰霊碑

文化祭の寄付先より

高等部文化祭チャリティ販売ブースでは、物品販売以外にも台風10号被害に対する募金を集め、16,301円を義援金として宮古市へお送りしました。

岩手県宮古市より高等部への手紙



初冬の候　ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

このたびの台風１０号豪雨災害に際し、多大なる義援金をお寄せいただき、宮古市民を代表いたしまして深く感謝申し上げます。

去る８月３０日に岩手県沿岸に上陸した台風１０号は、東日本大震災の復興途上にある宮古市にも、甚大な被害をもたらしました。市内各地で道路の崩壊や河川の氾濫が相次ぎ、交通やライフラインの寸断が起こったほか、家屋の全壊７７棟、大規模半壊２５１棟、半壊（床上浸水）1,３２４棟に上っており、被害推計額は２１３億円を超える状況にあります。

お寄せいただいた義援金は、お住まいが全壊および大規模半壊、半壊となった世帯へ配分することとなりました。皆様からの温かいお気持ちが、被災された方々への大きな励ましとなるものと確信しております。

度重なる災害に見舞われながらも、引き続き市民一丸となって更なる復興への道筋を歩んでいく所存でおりますので、今後ともお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

このたびお寄せいただいたご厚情に対し、略式ながら書中をもってお礼を申し上げますとともに、皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

平成２８年１２月５日

青山学院高等部　御中

宮古市長　山本正徳

今年もまた、まもなく３月１１日がやってきます。災害被災地のことや身の回りの防災のことへ目を向ける機会として下さい。